

私と仕事とフィンランド — Minä ja työni Suomessa: インタビュー 齋藤 昌子

Japanin Suomen-suurlähetystön kulttuuritoiminta – ensimmäisen lähetystösihteerin Masako Saitōn haastattelu

Helsingin yliopiston kielten maisteriohjelmassa pidetyille Japanin syventävät opinnot 1 -kurssille kutsuttiin Suomessa asuvia japanilaisia, joita kurssin opiskelijat haastattelivat. Opiskelijat käänsivät myöhemmin haastattelut japanista suomeksi.

Tämän projektin tarkoituksena on se, että opiskelijat luovat yhteyksiä Suomessa asuviin japanilaisiin ja rakentavat verkostoa, jossa voivat tulevaisuudessa käyttää japania käytännössä. Keskustelu vierailijoiden kanssa antaa opiskelijoille myös tilaisuuden miettiä tulevaisuuden uraa.

Suomeksi käännetty artikkeli julkaistaan Japanin kulttuurin ystävät TOMO-jäsenlehdessä.

Kiitän lämpimästi Masako Saitōta, joka vieraili kurssilla ja antoi haastattelun opiskelijoille.

Litteroi ja kääntäjä: Turkka Sairanen

Oikolukija: Jussi Nurmi, Riikka Länsisalmi

Haastattelijat: Joni-Petteri Hytönen, Tuuli Heikkilä, Laura Saarhelo, Turkka Sairanen, Miro Tähtinen, Anniina Ylitalo

Kurssin opettaja: Rie Fuse

自己紹介をお願いします。

齋藤昌子と申します。現在は在フィンランド日本国大使館に勤めていまして、広報文化班におります。簡

単に私が今まで何をやってきたかということお話すると、日本の大学を卒業しまして、ロンドンの大学院に行

きました。ロンドンの大学院を卒業した後に日本に戻りまして、私は、外務省は中途採用はなんですけれども、最初は民間企業の広告代理店に勤務をしました。その後、国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）というところに勤務をしまして、広報の担当をしていました。

その後、スーダンの国連機関に勤めました。その後は外務省に入りまして、在アフガニスタン日本国大使館に勤務しまして、二年間ぐらいした後、東京に戻って来ました。東京で広報の仕事と、後は原子力政策の仕事をして、その後在バングラデシュ日本国大使館に赴任をしました。バングラデシュで二年ぐらい務めた後フィンランドに来た、という流れになっています。主に広報に関する仕事をしていて、現在も広報文化班におります。

さきほど、ロンドンで勉強をなさっていたと申しました。詳しくご学歴について教えていただけませんか。

大学では法学部に所属し、法律について学んで、特に国際法とか憲法とか民法について学びました。ロンドンの方に進んだ後は、国際政治経済学を学びまして、経済学や国際関係論について勉強しました。修士論文では、アジアの経済危機と日本の役割について文章をまとめました。

国際的な仕事に興味をもっていらっしゃるのは何故でしょうか

もともと中学生だった時に、色んな科目を勉強しますが、英語が一番好きだったんですね。英語を勉強していると、日本人だけじゃなくて、世界中の色んな人とお知り合いになれて、話すことができると思ったので、将来は英語を使った仕事をしたいな、と思うようになりました。それで、どういう仕事があるのかなと調べていて、外務省もその一つのオプションとして考えるようになったので、もともとのきっかけは、英語が好きだった

ということですね。

お仕事の内容について、説明いただけますか。

現在は広報文化班というところにいまして、大きく分けて3つのお仕事をしています。まず1つ目が文化事業、2つ目が日本語教育、3つ目が人物交流の仕事です。

まず1つ目が文化事業に関する仕事なんですけれども、例えば、日本文化をフィンランドに紹介する仕事なんですけれども、2018年の9月には Annantalo で Japan Day というのがあったんですが、そこで尺八と三味線のコンサートを行いました。後は同じく9月に Tempeliahaukio 教会で和太鼓のコンサートを行ったりもしました。その他に今年の5月にはフィンランド国会（議事堂）の前の庭に桜の花を植えたりもしました。そういう風に日本の文化をフィンランドに紹介する仕事をしています。

2つ目の日本語教育については、例えば来月12月の2日に日本語能力検定試験があると思いますが、試験の実施のための業務をしています。その他には色んな、ヘルシンキだけでなく、フィンランド全体の日本語関係の団体がスピーチコンテストをやりたい時などに、スピーチコンテストを実施するための協力をしたりしています。後は日本語教育をしている大学や高等学校、団体などと協力して、日本語教育の普及・促進等について意見交換をしています。

3つ目は人物交流ですが、これは主に文部科学省の留学生の選定があります。毎年フィンランドからは大学の学部生一人程度、それから大学院生が一人か二人ぐらい日本に送っています。そのための事務

的な手続きや面接試験など行っています。後は文部科学省以外にも「MIRAI プロジェクト」というのがありまして、これは一週間ぐらい日本に行って、色んなところを訪問したり、色んな方に合って意見交換するというプログラムなんですけど、こういう MIRAI プログラムとかの留学生事業について実施をしたり協力をしたりしています。

以上 3 つが仕事の主な内容になります。

どういう経緯で今の仕事に就かれましたか

外務省の仕事というのは、基本的に人事課から辞令をもらうので、私の場合も同じように人事課から「フィンランドに行ってください」と言われたんですけども、その前提として毎年一回、「次に世界のどこの地域に行きたいか」というような希望調査があります。それで、私はここに来る前にバングラデシュにいたんですけど、「次は北欧に行きたいな」とずっと思っていて、希望届に北欧と書いていました。それで、バングラデシュが終わる頃に、人事課が「じゃあ、あなたは次はフィンランドに行ってください」と言われて、フィンランドに来ることが出来たのでよかったと思います。

お仕事の好きなところはなんですか。

さきほど、フィンランドと日本の架け橋と言ってくれたんですけども、まさにそうで、特に文化事業であるとか人物交流事業っていうのは日本とフィンランドの人と人繋ぐ役割をしているなと思って、自分の出来ることは本当に少ないんですが、自分がきっかけとなってフィンランドと日本の距離が少しでも縮まってくれることがすごく面白いですし、嬉しいことだと思っています。

お仕事には何か難しいことはありますか

やはり人が関わる案件が多いので、その人と人、それぞれ皆さんやりたいことたくさんがあるので、その調整に時間が掛かったり、例えばAさんとBさんの間のどこで合意するのか、その調整はすごく難しいですね。

初めてフィンランドにいらして、何か驚かれたことがありましたか。

今の季節もそうなんですけれども、皆さん傘をささない人が多いです。日本と比べると、フィンランドは乾燥しているので、日本の方がもうちょっと、濡れる雨だと思うんですね。こっちに来たとき皆さんが帽子を被ったりするせいもあると思うんですけど、傘をささないでそのまま歩いている人は多いです。私もほとんど傘を使わなくなって、この前私の母親が来たときに、傘をささないことにとてもびっくりしていました。

もう一つびっくりしたことがあって、買い物をするときに現金を使わないで買い物をできる、ほとんどデビットカード・クレジットカードで出来るので、これは凄い便利だと思います。日本はまだ、もちろんクレジットカードでも払えるところが多いですが、フィンランドほどカードが普及していません。もうちょっと日本でも普及すればいいなって、考えています。フィンランドのそういうカード社会はとても便利でいいことだと思っています。

フィンランドにいらしゃって、フィンランドの印象はどのように変わりましたか。

実を言うと、ここに来る前はフィンランドの知識がほとんどなくて、フィンランド人にも会ったことがなかったので、本当にゼロの知識から来たんですけれども、皆さん穏やかで親切な人が多くて、それから日本のことをとても好きな方が多くて、日本人に対してとてもフレンドリーだなと思いました。日本人と性格的にも合うんじゃない

ないかなと思っています。

様々な国にお働きになっているんですが、各国の労働環境がどのように違うと思いますか。

フィンランドに来る前にバングラデシュに行って、その前東京にいて、その前にアフガニスタンにいて、東京とフィンランドを除けば、私は途上国に勤めることが今まで多かったので、途上国とフィンランドみたいな先進国を比べるのは生活環境がまったく違って、その便利さであるとか、治安の良さであるとかまったく違いますね。例えばバングラデシュでは買い物とかも種類が少なかったですし、治安もよくなかったので、なかなか自分の足で歩いて色んなところに行くことができなかつたですけども、フィンランドは週末に自分の足で歩いて買い物に行けますし、治安面でもすごく安心して街を歩くことができます。そういう点では大きな違いだと思います。

もし我々学生が将来、大使館で働きたければどんな資格や素質が必要とされていますか。

日本の大使館で職員として働くこととフィンランドの大使館で働くっていうのと、多分組織が違うので組織によって異なると思うんですけども、例えば私が今いる日本国大使館で働く時に求められることとしては、皆一人で仕事をするわけではないので、チームワーク・皆と協力してできるような姿勢を持つこと、それからもちろん、外交官として働くことの一番重要なのは外国に対する興味・好奇心を持っていることが必要だと思います。後は仕事を進める上で、誰もが思うこととして、全部上司が教えてくれるわけではないので、自分で考えてより良い成果を出すための自分の前向きな姿勢が大事じゃないかなと思っています。

大使館での一日の流れについて説明していただけませんか。

日によっても違うんですけども、大体まず会社に来たらパソコンを開けて、メールを確認して、まず東京からメールを来てないかとか、後は外部の方からメール来てないかを確認したり、後は世の中何が起きているのかわかるために日本のオンライン新聞を確認したりします。私はフィンランド語を読めないで、現地職員が毎日日本関係について新聞が出た場合はレポートをしてくれるんですが、どういう日本の記事を出たのかなということを読んだりしています。後は、例えば文化行事の実施について外部の団体とやり取りしたりとか、書類を作成したりとか、書類がまとまったら大使に説明するとか、そういうことを行っています。

よく旅行していらっしゃいますが、新しい環境について知る・慣れるために何をなさっていますか。

やはりフィンランドについてはまだまだ知らないことばかりなので、何か分からないことがあると、なるべくフィンランド人の現地職員に聞いて分かるようにつとめています。フィンランド人の考え方であるとか、それから習慣とか色々質問して知るようにつとめています。

フィンランドに住んでいる中に何かいららすることありますか。

物価が高いところですかね。東京も高いんですけども、特にこちらでは高いなと思ったのが食べ物ですかね。食べ物とかレストランが高くて、日本だと特にランチとかは安いのは500円ぐらいからあったり、安いものから高いものまで種類があるんですが、フィンランドでランチを食べようとすると大体10ユーロ（1300円）ぐらいしてしまって、日本だと1300円のランチはすごく高いイメージがあるので、唯一フィンランドでいららするところだと言ったらそれは物価が高い点ですね。

好きなフィンランド料理はありますか。

サーモンスープが好きです。それから、魚の酢漬けとか好きで、日本人の口によく合うと思います。一般的に魚料理が好きです。

フィンランドの生活で、何か分からない習慣がありますか。

まだ慣れていないのが、遠くに行く時のバスの乗り方とかですね。お金の支払い方とか、後は時々行き先が英語で書かれていないこともあるので、そういう時はとても困るなーっていうのがあります。

子供の頃の夢の仕事は何でしたか。

さっきお話した、英語が好きだったので外国と日本を繋ぐ架け橋となるような仕事をしたいなと思っていました。小中学生の頃はまだ外交官という仕事があるには知らなかったのですが、具体的には高校生ぐらいになってから、外交官って面白そうだなとか、国連職員って面白そうだなっていう風に思い始めて、そしてどうやってそうなれるのかなと調べるようになりました。

ご趣味は何でしょうか。

昔から合唱団を続けていて、こちらでも合唱団に入っていて、ちょっとなかなか仕事でいけないんですけど、その合唱をやっているのと、体を動かすのは好きなので、ジムに行ったり、後はピラティスをやったり、後は家では音楽を色々聴いたりしています。

日本に恋しいものがありますか。

これも魚なんですけれども、こちらでもお寿司を食べられるんですけども、なかなかこちらの寿司でないのは

マグロなんですよ。サーモンはすごく美味しいですけども、なので日本へ帰っていつも一番最初に食べたのはマグロのお寿司であったりとか、その他にイカとかタコとか、後は日本語で光物と呼ばれる青い魚があるんですけど、なかなかこちらではないような魚のお寿司とか刺身を食べたいなと思います。

我々学生のために何かアドバイスがありますか。

皆さんは日本語を勉強されているということで、フィンランド語と全然違うと思うんですよ。特に皆さんが一番難しいと感じられているだろうと思うのやはり漢字なんですけれども、今出来ることを一生懸命に学んで漢字は覚えて色々沢山書いて、そして将来日本とフィンランドの両方を繋ぐような架け橋になっていただけたら、嬉しいなと思っています。

齋藤さんの一番好きな日本の季節はなんですか。

自分の好きな季節はやはり春で、私は春生まれなので、やっぱり自分が生まれた季節が好きです。後はやっぱり花見が出来て桜の季節としても好きです。

フィンランドと日本のある貿易についてですが、貿易のための翻訳者としてのスキルを身に付けたいならば、どの分野に集中した方が一番いいと思いますか。

今の日本の企業も多く増えてますし、特にデザインとか建築関係とかについてのご専門の方々がフィンランドに来て勉強されていたりとか仕事をしてるとかよく聞いたことがあります。後は日本の観光客もとても増えているので、一般的にフィンランドの観光地とかそういうところの知識も深めるとよいのではないかと思います。あとは、例えば林業などフィンランドで盛んだと思うので、そういうところですかね。まずは得意分野を決めず

に、幅広く色々やってみて、その中で面白い分野に後から絞るって方法もあると思います。最初から狭めてしまうと可能性がちょっと低くなってしまいますので、まずは色々をやってみた方がいいんじゃないかなと思います。